

2015年7月18日

渥美国際交流財団 第49回SGRAフォーラム

「日本研究の新しいパラダイムを求めて」

基調講演「新しい、アジアの日本研究に求めるもの」

早稲田大学名誉教授、東洋文庫理事

平野健一郎

### 1. はじめに

素晴らしい仲間に加えていただき

平野健一郎自己紹介：

近代日本のアジア関係を研究、アジア政経学会の会員、アジア地域研究、アジア歴史資料センター（アジ歴）センター長

### 2. 日本研究の歴史的発展

二つの「日本研究」＝日本人研究者による「伝統的な」日本研究 と  
日本人研究者以外による「国際」日本研究

日本経験（文化）の特異性（独自性）／普遍性

特殊な研究者から総合的な研究者へ

個別理解 → 相互理解

国境を越える「知」の「公共空間」としての「アジアの日本研究」の構築（劉傑）

相互理解 → 相互関係的理解 → 重層的理解

重層的な構造の中に日本の経験・文化を位置づける（学際的・統合的理解が必要）

→ これまでの「アジアの中の日本」の研究としての日本研究 と

→ これからの「アジアの中の日本」の研究としての日本研究

### 3. 「アジアの中の日本」としての歴史理解の深化

近代日本の成功と失敗をアジア全体が共有する（劉傑）

中国史研究、韓国史研究、日本史研究のやり直し

→ アジア史研究、その中の各国史研究の構築

日本の「近代化」努力：朝鮮、中国の反応・競争を強く意識

(例) ソウル大学河英善教授による「概念史研究」

概念の文化触変のアジア内連鎖

アジア史の反省

情報の共有化（劉傑）？

日本のアジア研究者と日本史研究者の交流？国際的な連携？

各国史研究者同士の交流と対話を

「アジアの中の日本」の歴史理解の深化 ⇒ 歴史認識問題改善への糸口

#### 4. 「アジアの中の日本」としての現代的理解の深化

現代日本経験の有用性

戦後日本の経験（環境問題、高齢化、エネルギー問題、自然災害など）をアジアの共有財産とする（劉傑）

→ 歴史経験への償い／日本へのフィードバック

平和と安全保障の問題（戦後日本の経験の一つとして）

誤った歴史への反省

意思と環境

「東アジア共同体」論の復活 ⇒ アジアの研究者による知的共同体の創成

#### 5. 最後に

知の公共空間（アジアの中の日本研究）の上に知的共同体を創る

国際シンポジウム方式→ワークショップ方式、共同作業を

アジアの平和と安定に寄与を